

# 西九州大学グループ 地域連携センター事業概要

H.25 7. 27 地域連携センター運営委員会

# 1. 企画研究開発部門

# 企画研究開発部門

## 概要

地域のニーズに応えるため、企業、地域コミュニティ、NPOなどとタッグを組んで、プロジェクトを企画し、実際に共同研究を行うことで佐賀を活性化するようなイノベーションを起こす。



農産物の利用



街中活性化



高齢化社会

## 取組例

ひしぼうろの開発(神崎市)



## 取組計画例

佐賀市



- ・ 中心市街地活性化プロジェクト
- ・ 介護予防プロジェクト
- ・ 交通UDプロジェクト

神崎市



- ・ 商品開発プロジェクト
- ・ 保健・医療・福祉・子育て支援プロジェクト

小城市



- ・ 街中サポータープロジェクト
- ・ 商品開発プロジェクト

吉野ヶ里町



- ・ 介護(痴呆症)予防対策プロジェクト

## 2. 地域社会連携部門

# 地域社会連携部門 平成26年事業計画(案)

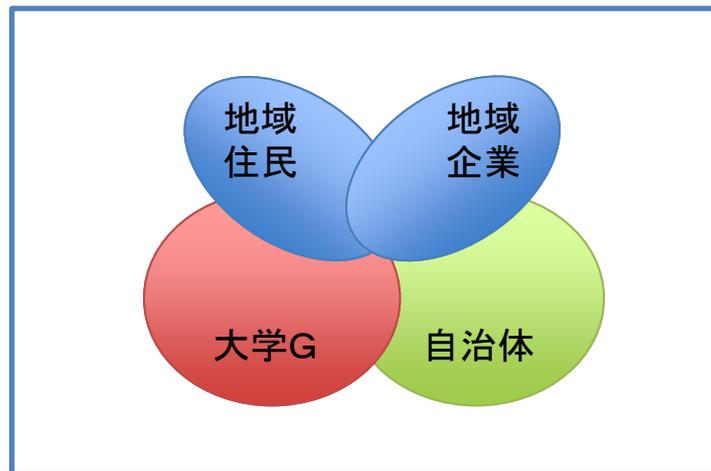
担当:上城(リハ), 酒井(社福), 安田(栄養)

## 地域社会連携部門概要

地域社会連携部門では、地域社会を地域住民, 地域企業, 西九州大学グループ, 自治体などとしてとらえ(図), それぞれが持つニーズとシーズを相互的に連携させ, 双方にとってプラスとなる事業・活動を協働にて展開する。

## 西九州大学グループのシーズ

- 1) 栄養学, 社会福祉学, リハビリテーション学, こども学などの専門知識の提供と共同研究ができる。
- 2) 教育の一環として学生を動員することができる。
- 3) 西九州大学グループが持つ, 施設や設備が利用できる。



図

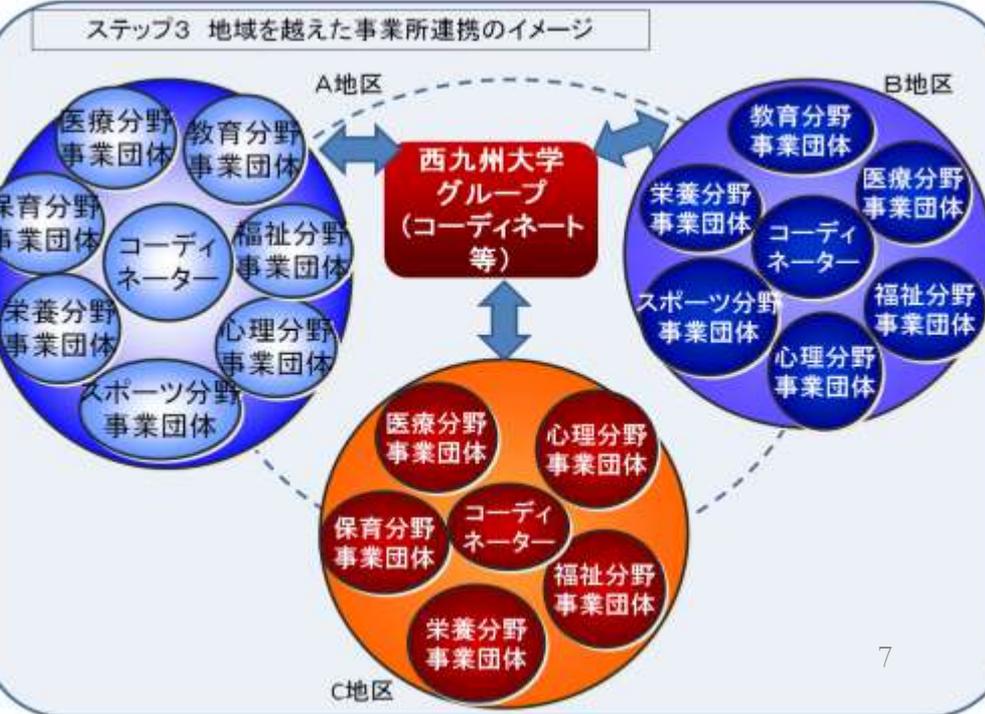
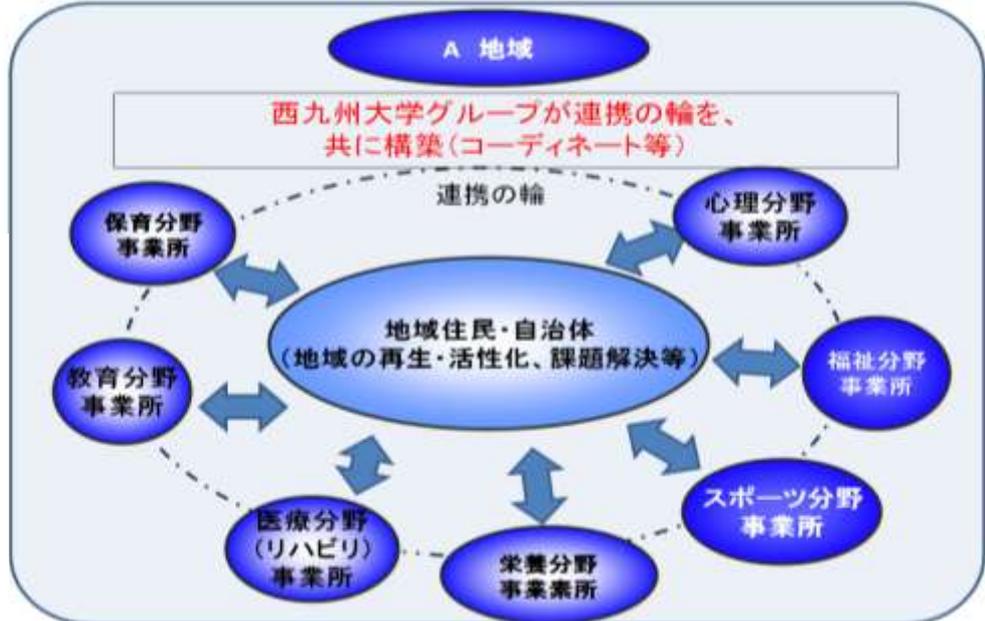
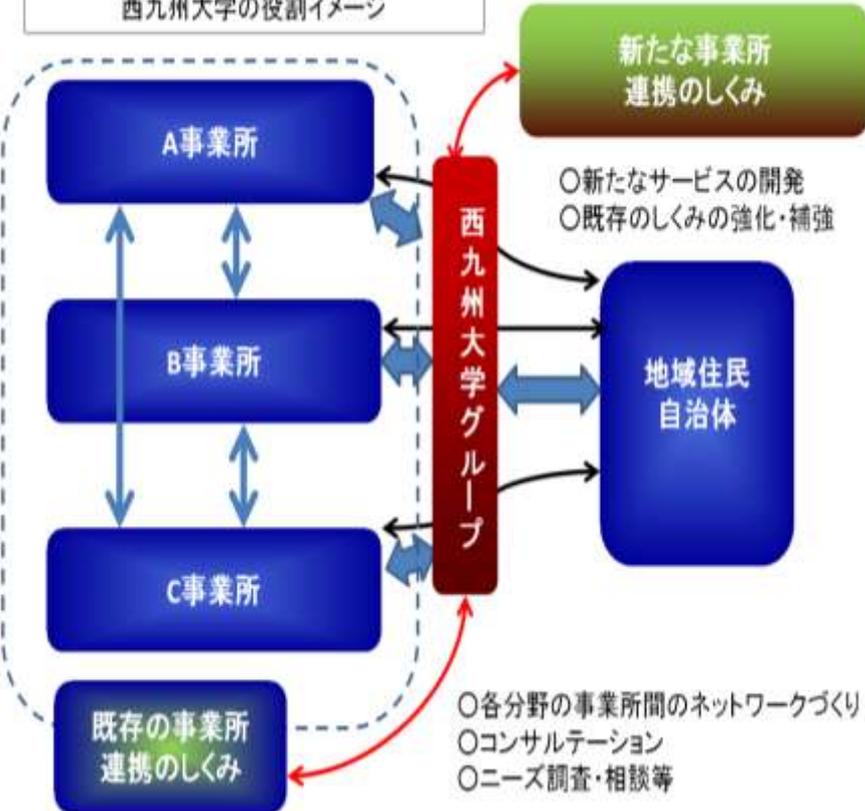
## 地域社会連携部事業計画(案)

- 1) 自治体については, COCにて提出した①介護(認知症)予防プロジェクト, ②保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム, ③「街なかサポーター」活動を通じた安心生活づくりプロジェクト, ④産学官連携による機能的食品の開発プロジェクト, ⑤地域住民と連携した交通UDプロジェクトを支援し, COCが採択されない場合もこれらが実施できるように方向づける。
- 2) 地域企業については, 地元企業のニーズとシーズを調査し, 西九州大学グループとの連携の可能性について検討する。現時点では, ①障害者雇用に関する支援事業, ②職員のメンタルヘルスに関する支援事業, ③企業タイアップでの商品開発, などをイメージしている。
  - ①障害者雇用に関する支援事業では, 身体機能や高次脳機能障害によって仕事の能率が低い職員や精神障害によりコミュニケーションが上手く図れない職員への対応支援を,
  - ②職員のメンタルヘルスに関する支援事業では, 主にうつ状態を示す職員に関するカウンセリング支援を,
  - ③商品開発では, 栄養関連の食品開発(ヤクルトなど), 高齢者や障害者の住環境・福祉用具開発(松尾建設, GOAL, トヨタ紡績)を検討する。

### 3. 事業所連携部門

# 事業所連携部門

ステップ1 各分野の事業所連携における西九州大学の役割イメージ



## 4. 講座研修部門 人材ネットワーク部門

# 講座研修部門・人材ネットワーク部門

- 地域における問題に対して、西九州大学が学生と教員及び市民と共に問題に向き合い地域の諸問題を主体的に解決する。
- 学生が地域に出向き、市民が西九州大学に訪れる異世代教育の推進から、学生の社会的能力の向上が期待できる。これら教育力の高まりや地域改善の成果を科学的に整理し、研究に繋げることによって地域の問題解決及び教育のあり方に反映させる。

# 講座研修部門・人材ネットワーク部門

## 1) 学生から地域に出向く活動

小城市サテライト事業、食育サポートセンター、ESRD大会、  
高齢者虐待ネットワークさが、あそびフェスタ等

## 2) 市民が西九州大学に訪れる活動

エルダーカレッジ、公開講座、生きがづくり教室、講座受講生  
にこにこふれ愛デイ、ほっとひろば、チャレンジ幸齢セミナー、  
学校訓練会、親子いきいき広場、子どもミュージアム等

西九州大学神園・神埼両キャンパスで行われている各事業を  
一つにまとめて有機的・効率的・総合的に大学から地域社会に  
発信する必要がある、地域諸問題を大学が解決する組織部門

A群 (5事業)

- ・エルダーカレッジ本科
- ・エルダーカレッジ専攻科
- ・公開講座(水墨画教室・生け花教室等含む)
- ・生きがいづくり講座
- ・講座受講

B群(9事業)

- ・チャレンジ幸齢セミナー
- ・にこにこふれ愛デイ
- ・学校訓練会・ひのくまキッズ
- ・西九州大学社会福祉研究会
- ・高齢者虐待ネットワークさが
- ・とひろば
- ・びフェスタ
- ・SRD大会

講座研修部門 (21事業)

人材ネットワーク部門 (永原学園・同窓会・一般市民)

C群(4事業)

- ・食育サポート
- ・子どもミュージアム
- ・親子いきいき広場
- ・NCN研究大会

D群(3事業)

- ・行サテライト事業
- ・等受験対策講座
- (官埋末養士・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・理学療法士・作業療法士・保育士・教員験)
- ・講座研修部門冊子

健康福祉・生涯学習センター(神園)

健康福祉実践センター(神埼)

子ども研究ネットワーク(神園・神埼)

市民リカレントセンター(仮称)(神園・神埼)

## 5. 生活支援事業部門

# 生活支援事業部門

## \* 地域に開かれた臨床心理相談室

### 心理療法(個人・集団)

#### 個人心理療法

子ども: 不登校、心身症  
発達障害、いじめ  
大人: 子育て不安、対人  
関係によるストレス  
気分の落ち込み等

#### 集団心理療法

- ・東日本大震災被災者支援
- ・学校訓練会
- ・日の隈キッズ

### 臨床心理地域援助

#### 教育活性化事業

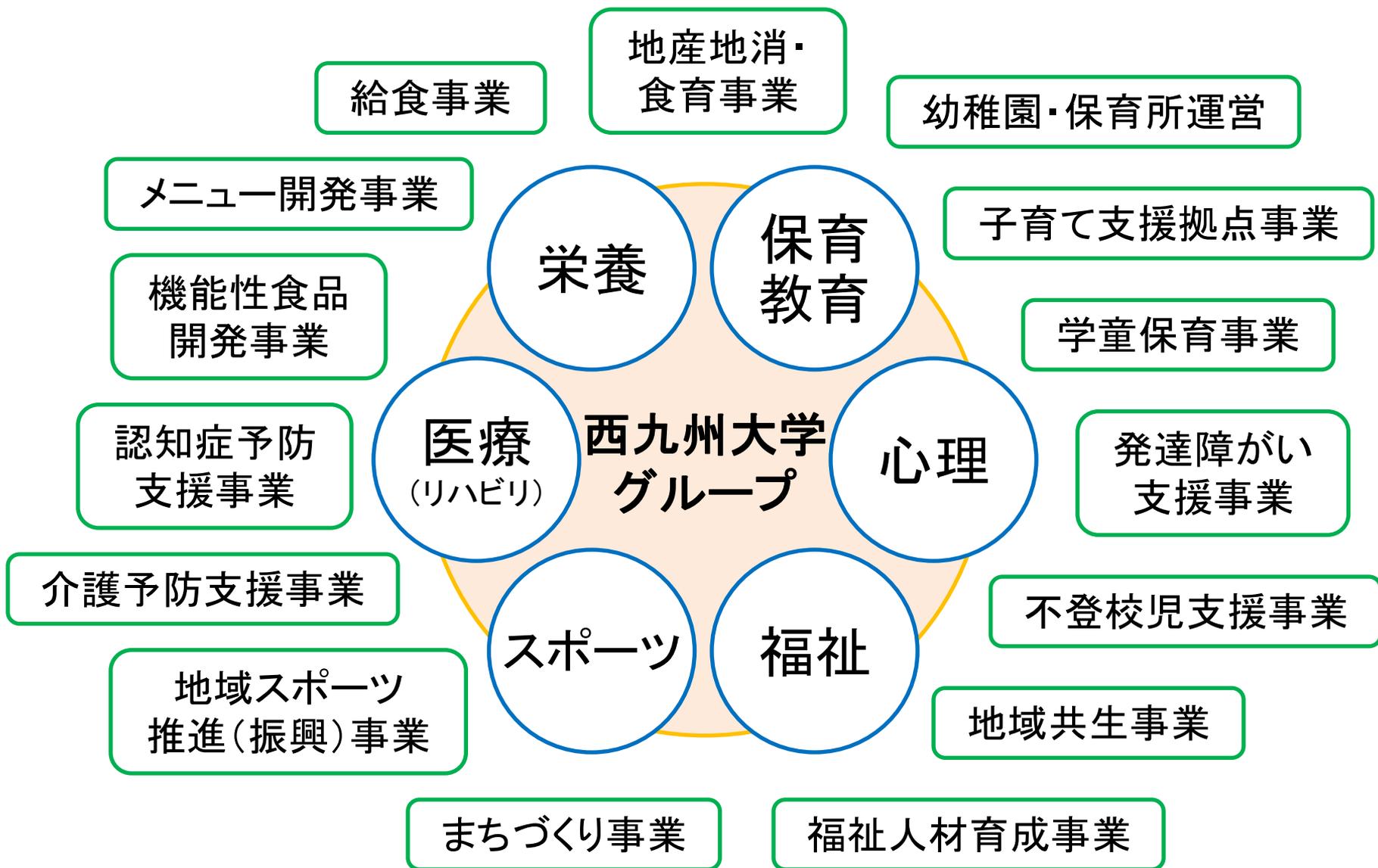
- ・小城市教育委員会との連携事業  
⇒不登校対策事業
- 心の相談員派遣事業
- ・佐賀市教育委員会との連携  
不登校支援についての情報交換
- ・佐賀県保健福祉部との連携  
被災者支援等における情報交換

## その他の生活支援事業

- ・介護相談事業
- ・買い物支援
- ・街なかサポート
- .....
- 他事業部門との連携  
による

## 6. 受託收益事業部門

# 受託事業部門



# (仮)小城キャンパス内クッキングスタジオ活用、活動(案)

西九州大学佐賀調理製菓専門学校

## 1 クッキングスタジオに於ける講座内容(案)

### (1)市民健康講座セミナー

- ・各生活習慣病の専門講師による講座及び健康食の提案、試食  
例 血圧、糖尿、脂質異常症対策具体的食事の実習、試食  
食生活がおよぼす生活習慣病対策講話など

### (2)介護食、刻み食セミナー

- ・高齢者向け刻み食事の講師、介護士専門講師による講習及び実習、試食

### (3)料理教室・西洋料理(イタリアンなど)、日本料理、中国料理、お菓子、パン類

- ・各専門調理人(話題シェフ、県内外含む)によるデモンストレーション指導、試食
  - ・年代別向け料理実習・季節料理の実習(おせち、おはぎ、Xマスケーキ)
  - ・親子料理教室開催(パン、ケーキ作りなど)
  - ・男性向け料理教室の開催(味噌汁、煮魚、かやくご飯など)

### (4)食生活、食文化の歴史と将来展望の講話

- ・現代の家庭内食生活、外食産業の傾向
- ・簡単料理でのテーブルマナー講座

## 2 施設面への具体的な提案

サテライト、交流センター(喫茶コーナー)と一体となるようなスタジオが望ましい  
外道路、通路からも覗けるようなガラス張りで興味心をあおる外内装  
機材、器具、調理機(IH調理器具)備品など清潔で機能的な室内にする  
空調、換気、モニター類、録画機能、音響の設置、バックヤードの確保  
明るい室内(天井ミラー設置)で活動が見えるシースルー的な構造が良い

## 3 開催期日及び日時

各開催スケジュールは市民の生活サイクル分析後提案予定(曜日・時間帯など)

## 4 その他

\* 2F多目的ホールでの料飲対応についてはデリバリー導線、機材準備、経費(人件費)

調理場の生産能力、宴会受注頻度など他方面からの検討が必要。むしろ発生ベースでの外部委託の方が良策

# 喫茶コーナー運営について

西九州大学佐賀調理製菓専門学校

## 1 店名の決定「 」由来

- 例・「ホタル HOTARU」小城市のイベントにもなっている話題昆虫  
幻想的な淡い光が人に安らぎと憩い懐かしさを与え、人々が集える
- ・「あずき 小豆 AZUKI」小城市伝統の和菓子・羊羹の原料で小粒で可愛い近代よりシュガーロードとして栄え小城市が誇る全国的な知名度のある和菓子
  - ・「祇園 Gion」ホタルの生息や日本酒を生み出す清流祇園川から美味しさの根源である水、潤いの発信基地的なイメージ
- その他4町をイメージした店名など広く市民より提案、公募をもらう

## 2 イメージ店舗(例・軽食喫茶)

- ・オープンキッチンでライブ感のあるキッチン
- ・地元風景、野菜、料理などのパネルを壁面に配す。植え込みを置く
- ・明るい配色で解放感のある店内(椅子、テーブルなど)

## 3 ターゲット……………市民および市外来場者

- ・特に若年男女、主婦層、

## 4 席数 ……………約20～30席が望ましい

## 5 スタッフ構成 5～6名 公休者含む

- ・調理作業スタッフ 1名(責任者) ・調理補助 バイト 2名  
調理作業、備品・食材発注管理、商品開発、会計売上管理
- ・洗い場 パート 1名  
お皿の洗浄、整理、破損管理
- ・ホールスタッフ(バイト)1名 調理補助兼務  
料理、ドリンクサービスの下げ・店内清掃

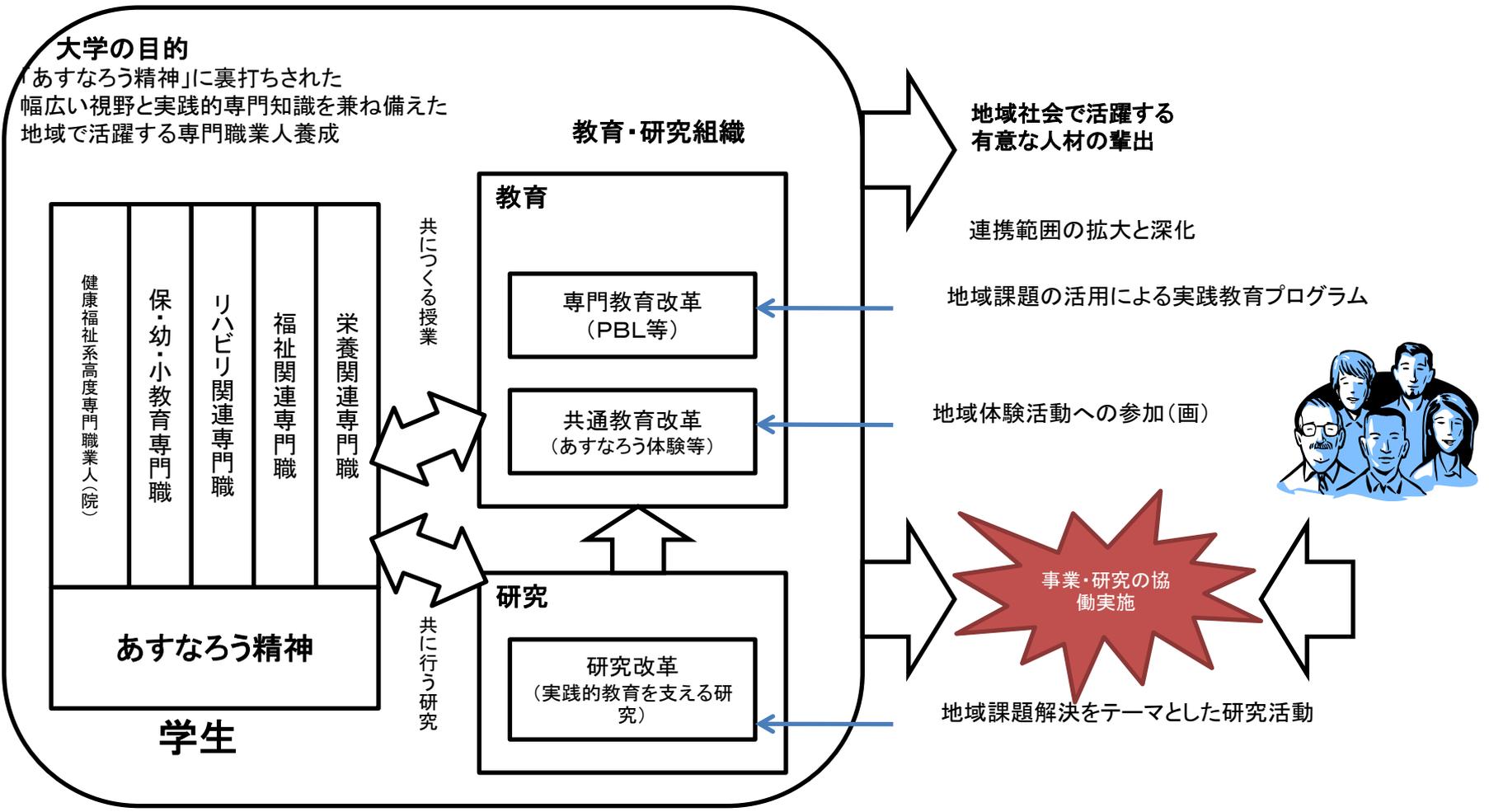
## 6 商品ラインのコンセプト

- ・地産地消食材を全面に出す
  - ・野菜、健康志向メニュー
  - ・軽食、喫茶メニュー
  - ・惣菜パン・菓子パン
- \*健康メニューについては栄養士、管理栄養士の指導を受ける。

## 7. 各事業を具現化するために

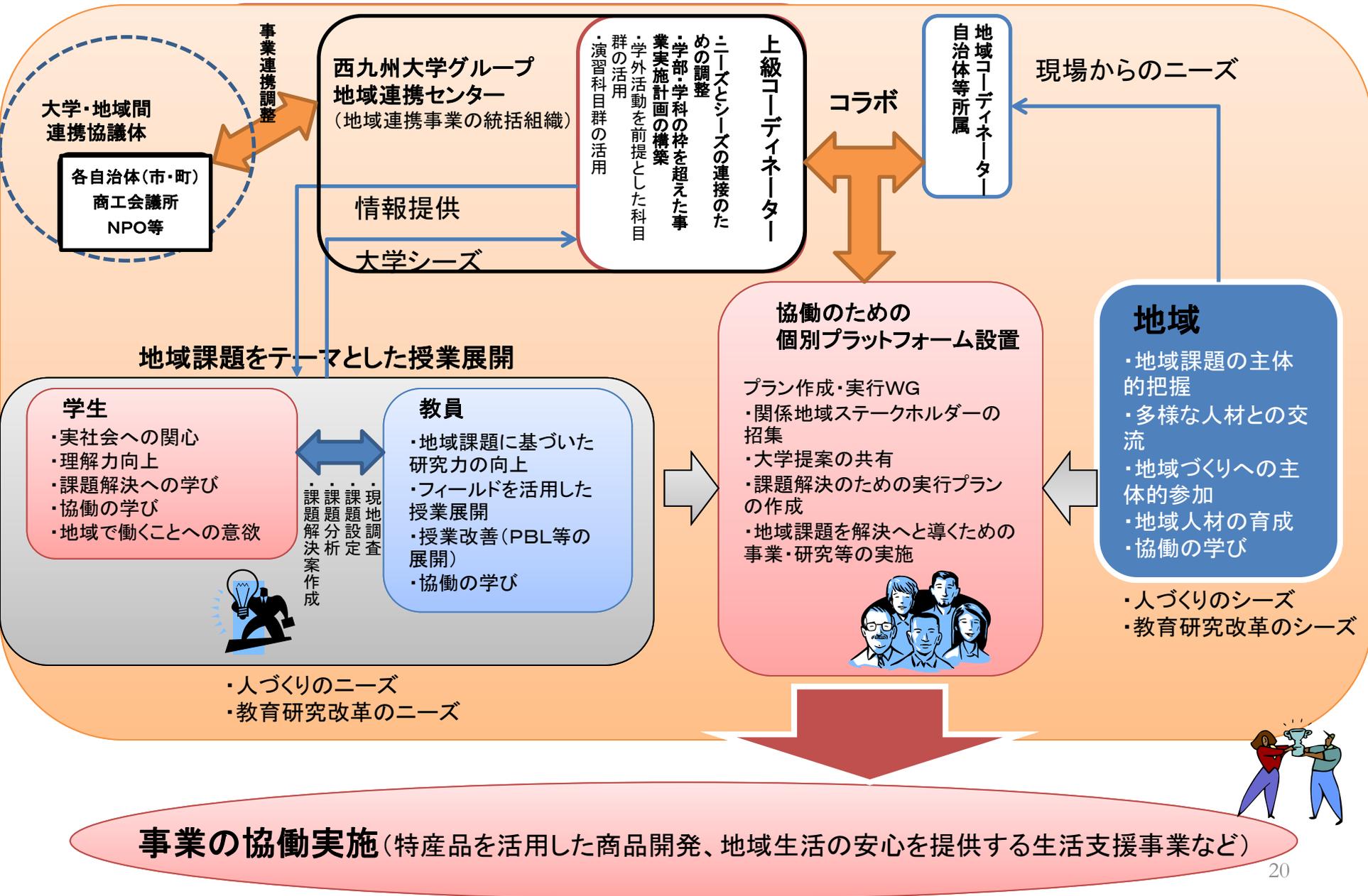
地域連携センターが目指すもの

地域の大学、西九州大学（地域課題解決と教育研究活動との一体化） 地域社会

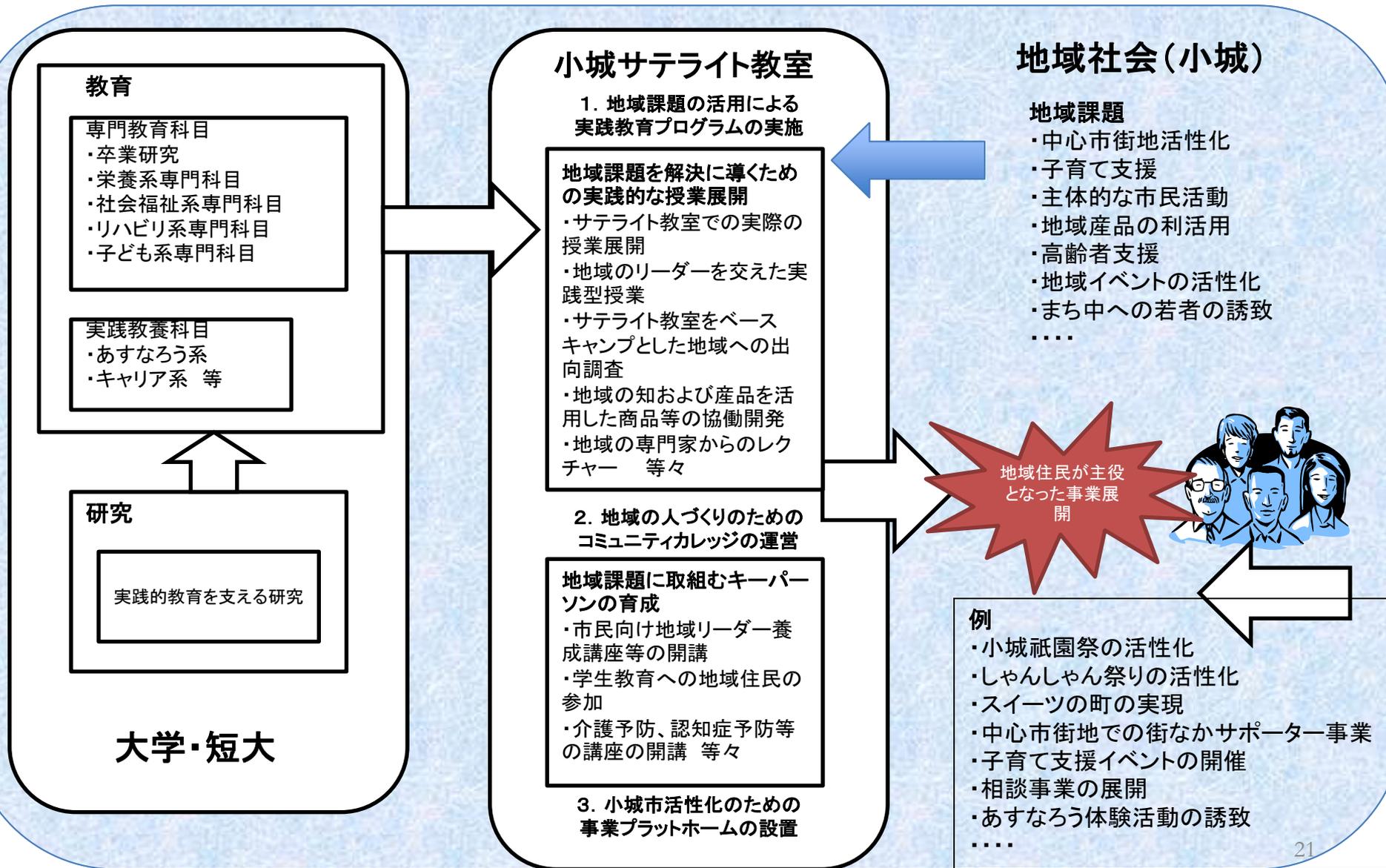


# 【地域連携の実際】

## 地域ニーズ(シーズ)と大学シーズ(ニーズ)をつなぐ事業実施フロー



それぞれのステークホルダーが得る恩恵の量は、互いに流した【汗】の量に比例する！



**ご清聴ありがとうございました。**